

幼小いっしょに『のとまり会』

1 趣 旨

- ・年長児と小学生が共に生活・活動を行うことで、学び合う機会を設ける。
- ・保護者が講師と語らうことを通して、育児に関する知識や子育ての悩みなどを解消するとともに、育児に関する見通しをもつ。
- ・同年代の子どもを持つ、保護者同士の情報交換の場とする。

2 ねらい

- ・生活・活動場面においてメリハリをつけることで、低年齢期の子どもたちに体験活動の楽しさを感じさせる。
- ・自分の食べるものを作る、テントで寝る、布団を敷いて寝る、自然物を利用して工作をする、長く歩く等の活動を取り入れ、楽しみながら基礎的な生活形態を体験する。
- ・保護者同士のネットワークづくりの場を設ける。

3 日 程

(1) 期 日 1回目 24年9月9日 2回目 9月22・23日 3回目 10月13・14日

(2) 参加者 1回目子供13名保護者13名 2回目子供24名保護者24名

3回目子供28名保護者23名

(3) 研修内容及び講師

9月9日 (日)	午前	○はじまりの会 (自己紹介 アイスブレイク) ○実習 探検能登の森 指導：交流の家職員 ◎保護者 トークセッション「子育て支援と幼少期の心の発達」 講師 石川県南加賀保健福祉センター長 沼田直子
	午後	○実習おやつ作り (ホットケーキ) ○ふりかえり
9月22日 (土)	午後	○はじまりの会 (自己紹介 アイスブレイク) ○実習 海への散歩 砂像造り 指導：交流の家職員 ○実習 テント泊
9月23日 (日)	午前	○実習 親子で遊ぼう 指導：日野和美 ◎保護者 ワークショップ「子どもの遊びと幼少期のこころの発達」 講師 石川県こころの健康センター嘱託 日野和美
	午後	○ふりかえり
10月13日 (土)	午後	○はじまりの会 (自己紹介 アイスブレイク) ○子ども遊びリンピック 上靴とばし 指導：交流の家職員 ○実習 秋を見つけよう 木工工作 指導：鹿島自然の家職員
10月14日 (日)	午前	○実習 親子ピザ作り 指導：鹿島自然の家職員
	午後	○実習 親子ピザパーティー ○ふりかえり

4 成果と課題

(1) 成果

<子どもプログラム>

子どものアンケート結果を見ると95%以上の参加者が「とても楽しかった・楽しかった」と答えていた。友達ができたこと、一緒に入浴したりテントで宿泊したりしたこと、ピザを作ったことなどが楽しかったという意見が多数あった。子どもたちは親元を離れて宿泊することに不安を感じながら参加したが、「みんな」や「いっしょに寝た」という言葉がアンケートの中に多く見られたように、仲間と協力して活動を楽しむことができたことが分かった。しかし中には、異年齢のかかわりを意識できなかったという反応も見られた。

<保護者プログラム>

保護者の学びの場として「子育て支援と幼少期の心の発達」「子どもの遊びと幼少期のこころの発達」のテーマで、講師を招いてワークショップを実施した。保護者は子育てに関する悩みを話し合い、育児に関する最新の知識を得ることで、子育てに対する自信を持つことができた。保護者のアンケートには「余裕を持って子どもを見ようと思えるようになった」「子育てに対してゆとりと自信が持てるようになった」などの感想があった。子育てに対する見通しや自信をもつことができるようになったことが伺える。

<県立鹿島少年自然の家との連携>

県立鹿島少年自然の家と連携することで、自施設では実施できない特色ある活動を展開することができた。また、指導方法や利用者対応について長所を学ぶこともできた。

(2) 課題

- ・ テント泊や海岸散歩など気候に左右される活動があるため、雨天プログラムを綿密に計画しておく必要がある。
- ・ 年長者が優位性をもてる活動を入れ、小学生が未就学児の活動を助ける、未就学児が小学生の助言を素直に聞くなど、参加者同士のかかわりが活発になるようにプログラムを工夫する必要がある。
- ・ 本事業が幼児対象のため、通常の活動より多くのスタッフのサポートが必要になる。当所の登録ボランティアだけでなく、近隣の大学の幼児教育課程研究室や看護大学等と連携を図り、年度当初から計画的にボランティアの確保に努める。



テントでいっしょにおとまり



親子で遊ぼ



みんなで食べようピザパーティー